

9-2 広域造成工事での人員不足、環境に対する意識向上の徹底

1. 立場と仕事

建設会社に入社し23年目、これまで主に発電所関係の仕事に携わってきた。これは、ゴルフ場跡地に93haの太陽光発電所を造成する民間工事の現場代理人として取り組んだ時のことである。

2. 遭遇した事態

本工事は、大規模開発許可がなかなか下りず、工期がかなり逼迫していた。しかし、発電所の事業開始のスケジュールは決まっていたため、工期を遅らせることは出来ない。現場は、もともとゴルフ場であったため、既設排水路の撤去や掘削に伴う仮調整池の設置等の準備工が必要であった。自分たちが施工を担当する造成工事の他に、排水や伐採、調整池の構築など多数の関連工事が輻輳しており、それらの間で調整を行わなければならなかった。

限られた工期の中、本設の調整池の構築をしながら、造成工事も進めていかなければならない状況である。造成手順や仮調整池配置の計画が重要であるが、とにかく広大な敷地であるため、排水経路の把握やその制御が難しい。しかも、現場の下流域には多くの水田を抱えており、排水する河川は漁業組合の管理河川であったため、工事中の排水の管理は非常に重要であった。また、近隣住民から粉塵の低減の要望等、環境面での制約が多かった。

最盛期には120人あまりの作業員が作業を行うため、職員の追加を支店に要望したが、なかなか増員が叶わず、数多くある工種を所長である自分を含めた9名で管理している状況である。詳細測量や、本設・仮設の構築など多くの作業を行いながら、排水処理や粉じんなどが周辺環境に害が出ないように、細かな管理が求められた。

そのような中、職員と作業員の間には、工事排水への配慮・管理に対してレベルの差があり、ルールに関する教育も実施したものの、一朝一夕に作業員の意識を変えることは難しかった。

3. 対応内容とその結果

人員不足への対応として、GNSSを用いた詳細測量の実施や、ICT土工の導入など、少人数で施工管理できる手段を積極的に導入した。また大型ブロックや、残存型枠などを提案し、工期短縮に努めた。

そして、何よりも重要なのは、職員および作業員それぞれの「環境に対する意識向上」であった。そのため、関係各社に再度教育を行い、全員に周知徹底するまで、根気強く繰り返し指導を行った。はじめは浸透しなかったものの、何度も何度も繰り返し指導を行うことで、関係者全員が濁水に対して高い意識を共有することができた。

最終的には、大きなトラブルもなく、工期内で工事を無事完了することができた。